

### 適材適所で美しい芝生を

サカエグリーンでは、長年にわたり芝生に関わる業務に携わってきました。芝生にも、様々な種類があることをご存知ですか？今回は暖地型・寒地型芝草について、ご紹介します。

芝草には多くの種類があり、大きく「暖地型芝草（夏芝）」と「寒地型芝草（冬芝）」に分けられ、そこからさらに草種、品種が分けられます。その名の通り、暖地型芝草は温かい気候を好み、寒地型芝草は寒冷的な気候を好みます。

一般的に、寒地型芝草は種子で、暖地型芝草は張芝で造成が行われます。暖地型芝草は茎（ほふく茎：ストロン）が地表をはって広がるため、ポット苗やほふく茎を細かくしたストロン苗が利用されることもあります。

#### 暖地型芝草（夏芝）

- 生育適温 25～30℃
- 代表的な草種 ノシバ、コウライシバ、バミューダグラス、センチピードグラス
- 暑さ、乾燥に強いが、耐寒性は低い
- 15℃前後で生育が緩慢になり、10℃以下になると休眠する（地上部は枯れた状態）。翌春温度が高くなると再び萌芽し、緑になるが、寒冷地では越冬できずに冬枯れしてしまうこともある
- ほふく茎で増えるため、張芝で造成されることが多い
- 除草剤などの表記で「日本芝」とある場合は、主にノシバやコウライシバのことをさす

#### 寒地型芝草（冬芝）

- 生育適温 15～20℃
- 代表的な草種 ベントグラス、ケンタッキーブルーグラス、ペレニアルライグラス、トールフェスク
- 1年中緑の芝生が維持できる
- 耐寒性に優れ、0℃以下でも枯れない
- 30℃を越す日が続くと夏枯れを起こす危険性がある
- ほとんどが種子で流通、2～3種を混合して利用

参考：雪印種苗株式会社カタログ



寒地型芝草は一年中緑を保ちますが、30℃を越す日が続くと夏枯れします。一方、暖地型芝草は気温が10℃以下になると休眠し、地上部が枯れてきつね色となります（上図）。

暖地型芝草を主に利用している温暖な地域では、冬場も緑の芝生を維持するために、低温期に寒地型芝草を播種（ウィンターオーバーシーディング：Winter Over Seeding）する方法があります。この場合、翌春の寒地型から暖地型への切り替え（トランジション）がスムーズに行われないと、ベースの芝が傷み、大面積の被害となる場合があります。ベースとなる暖地型芝草には傷みからの回復が早い品種を、ウィンターオーバーシーディングに使用する品種には、一年生の品種や、耐暑性が低く、春期の衰退が早い品種を選定することが重要です。

日本列島は南北に長く、また、高低差もあるため、様々な気候パターンがあります。良好な芝生を作るには、気候パターンや利用目的に適する品種を選ぶことが重要です。また、いくつかの品種を混ぜて使用すると、それぞれの品種の欠点を補いあう効果や、病虫害や異常気象に対するリスクを分散する効果が期待できます。

## 製品紹介

### ジシアンダッシュS680

### 低温時でも抜群の効果 初期生育を充実



- 肥料名称：ジシアンジアミド・硝酸態窒素入り化成
- 成分：窒素 16%  
(内アンモニア態10.9%、硝酸態4.0%)  
リン酸 18%  
加里 10%  
Mg 1.5%  
B 0.2%
- 正味重量：20kg/袋
- 施用目安：芝生 30~50g/m<sup>2</sup>  
葉菜類 80~140g/m<sup>2</sup>  
果菜類 40~120g/m<sup>2</sup>  
根菜類 40~100g/m<sup>2</sup>  
※葉菜・果菜・根菜類の追肥の場合は  
20~30g/m<sup>2</sup>

- 気温の低い場面で優れた肥効を示す硝酸態窒素と、アンモニア態窒素から硝酸態窒素への移行を穏やかにして、窒素成分の流亡を抑えるジシアンジアミド（硝酸化成抑制材）を配合。
- 気温の低い時期に定植する作型や、寒冷地・標高の高い地域での生育の長い作物の栽培に適しています。

- 硝酸態窒素とジシアンジアミドの相互作用によって、初期生育を充実させ、その後も安定した肥効を示します。
- 作物の成長に不足しがちな微量元素マグネシウム (Mg) ・ほう素 (B) を配合。
- 作物・土にやさしい硫酸カリ使用。

### 亜リン酸化S006

### 亜リン酸が発根を促進



- 肥料名称：ジシアンジアミド・亜リン酸入り化成腐植酸
- 成分：窒素 10.0% (ジシアンジアミド配合)  
リン酸 10.0% (亜リン酸配合)  
加里 6.0%  
Mg 2.0%  
Mn 0.1%  
B 0.2%
- 正味重量：20kg/袋
- 施用目安：30~50g/m<sup>2</sup>

- 発根促進効果のある亜リン酸と、窒素成分の流亡を抑えるジシアンジアミド（硝酸化成抑制材）を配合。
  - 作物の成長に不足しがちな微量元素マグネシウム (Mg) ・マンガン (Mn) ・ほう素 (B) を配合。
  - 作物・土にやさしい硫酸カリ使用。
- ※施肥量が多すぎると生育に障害が出る場合があります。  
容量を守って使用してください。